

日本選手コメント【7月17日】

◆福永凌太選手(中京大クラブ) T13 走り幅跳び決勝 銀メダル

「今日の周りの選手の結果なら金を狙えるかなと思ったが、これが今の実力かなと思う。調子が良かったこともあるが走り幅跳びは楽しめた。パラ陸上を志したときに世界一になると決めたが、それ以前も中学校高校のときも一番になりたいと思って競技を続けていた。今の自分が当時のあのころの自分に証明できたかなと。今大会通じて今の自分が大好きだなと感じている。」

◆岩田悠希選手(KPMG) T20 1500m決勝

「スタートが出遅れたのでラスト500mはスピードアップしました。2年ぶりの海外選手との競技は楽しかった。3分50秒を着れる様に頑張ります」

◆赤井大樹選手(ワークマン) T20 1500m決勝

「優勝を目標にしていたので悔しいです。ラスト200mくらいでスパートかけて優勝したかったが、そこは悔しいです。日本では位置取りや押し合い、スピードが世界とやると全然違う。」

◆十川裕次選手(大分陸上競技協会) T20 1500m決勝

「悔しいです。海外選手のパターンになってしまった。完全に力負けで自分が勝てるレースにならなかった。次の神戸でも頑張りたい。(スタートダッシュに)しっかり行こうとおもったが予想外。ただ、何もせずに負けるよりはよかった。」

◆石田 駆選手(トヨタ自動車) T47 100m予選=決勝進出

「まずは通過点だが、決勝進出できてホッとしている。ビデオなどを見て決勝に備えたい。(3組目の)三本木選手がしっかり決勝進出できるように応援をしつつ、自分もタイムで拾われる様に祈って、3組目をみていた。」

100m決勝後

「非常に悔しい結果だった。記録もそうでしたが、日本選手最後の種目だったので。自己ベスト出していれば……。予選と比べれば、スタートはよくて横並びだったと思うが中盤、後半の走りが……。まだ足りないところがあったかと思う。」

◆三本木優也選手(京都教育大学) T45 100m予選

「レース自体はスタートからはうまく走れたと思うが……。自分の中で最大限走った中でこのタイムはまだまじかなと思う。11秒1とかフラットくらいで走っていた

感覚だが、シーズンで一番遅いくらいのタイムで勝負にならなかった。世界の壁が高いうよりもまだ、自分がそこまで至っていないということ。夢見た舞台だったのでプレッシャーもなく楽しめたレースではあった」

◆高松佑圭選手(ローソン) T38 400m

「8レーンだったので、前半から逃げられるところまで逃げて、自分のレースをやり切れたと思いました。4位以内を狙っていたので、残念な部分はありますし、シーズンベストがでなかったのは悔しいなという思いがありました。まだまだ持久力とスピードが足りないので、もっと練習したいと思いました。」

◆佐々木真菜選手(東邦銀行) T13 400m

「最後の直線の中で、自分が一番外のレーンだったのでレースの感じが分からなかったが、接戦だったことを聞いて悔しいです。これで終わりではないのでまだまだ頑張っていきたい。このタイムは、(今シーズン)56秒台を目指してやってきたので、まだ納得はいかないが、今日のレースの感覚としては悪くはなかった。」